

第 2 部：日本の取組と課題

高瀬：ではお時間になりましたので、第 2 部を始めさせていただきます。第 2 部に先立ちまして、科学技術振興機構 外村理事から皆様にご挨拶をさせていただきます。外村理事、よろしくお願ひします。

歓迎の挨拶

外村 正一郎 (JST 理事)

外村：JST の理事をしております外村と申します。本日はたくさんの方にご参加頂きましてありがとうございます。第 1 部では英国のグリーンディール政策についてアランさんとジョナサンさんにご講演頂きました。第 2 部では経済産業省の森川様、環境省の増田様、国土交通省の宮森様に日本の省エネルギー政策に関連してお話を頂きます。

JST では「さきがけ」や「CREST」のプログラムの中で再生可能エネルギーや省エネルギー関連の基礎科学に関して、多くの研究開発を推進しています。また、先端的低炭素化技術開発、ALCA と呼んでいますが、このプログラムでは太陽エネルギー、超伝導、蓄電技術、省エネルギー関連など、低炭素社会実現に向けた多くの技術開発を推進しています。復興庁、経済産業省、文部科学省が協力して進めている革新的エネルギー研究開発拠点形成事業では、福島県郡山市に産総研の協力を得て研究施設を構築し、変換効率が 30% を超える革新的太陽電池を研究開発するというプログラムを推進中です。

一方、JST の低炭素社会戦略センター、LCS では持続可能で豊かな低炭素社会実現のためのビジョンやロードマップの作成を関係の機関と協力して進めています。そのような活動の中で、新しいクリーンエネルギー技術の開発と同時に、暮らしの中での省エネルギーがもたらす効果が極めて大きいということがわかっています。省エネ住宅への改築や省エネ家電への買い替え等が、非常に効果があるわけですが、一方で一時的な出費が大きく、推進の障害にもなっています。そこで省エネ推進の助成や新たな政策の検討といったものが低炭素社会の実現のために非常に重要になってきます。

ここでは Future Earth で言われている多くの利害関係者の皆様の意見を聞き、共に検討して社会実装していくという新しい取組みが重要と思われまます。

その中で本日お話し頂きました英国のグリーンディール政策は大変参考になると考えています。この英国のグリーンディール政策を参考に、日本の特徴や固有の事情も考慮し、カスタマイズして、民間ベースで持続的に運営できる新しい制度設計をすることが非常に重要であり、そのための調査・検証を平成 26 年度にしていきたいと思っています。また可能であれば、平成 27 年度以降に、関係する企業の皆様と共に、プロトタイプ社会実験を実施できれば非常にありがたいと考えています。

そういう中で、このようにたくさん関係省庁や研究機関、企業の皆様の参加を頂いて、本日このワークショップを開催し、意見交換やご議論を頂くということは、大変に意義深いことと考えています。JST としましても、あらゆるステークホルダーの皆様と共に考え、共に豊かで持続可能な社会実現のために努力していく所存です。ご参加の皆様には、これからの第 2 部、また第 3 部を含めて、是非、活発なご議論、意見交

換をお願いしたいと思います。また JST に対するご意見がございましたら、それを聞かせて頂ければと思います。どうぞよろしく願いいたします。簡単ではございますが、私からの挨拶とさせていただきます。

高瀬：外村理事、ありがとうございました。

では引き続きまして第 2 部の最初の講演は、経済産業省 産業技術環境局 環境政策課の森川様より、日本の省エネルギー政策と J-クレジットについてです。

省エネルギー政策と J-クレジット

森川 純 氏（経済産業省 産業技術環境局 環境政策課 環境経済室 環境調和産業推進室 課長補佐）

Energy Efficiency and J-Credit Scheme

Jun MORIKAWA
Environmental Economy office
Ministry of Economy, Trade and Industry
February 2014

皆さんこんにちは。只今、ご紹介にあずかりました経済産業省 産業技術環境局 環境経済室の森川と申します。本日はこのような機会を与えて頂きありがとうございます。私の部署は、実は省エネではなく、どちらかという国の CO₂削減目標、産業界の実施行動計画、市場メカニズムを活用したクレジット制度等を担当しているところです。ただ、温暖化対策と省エネというのは、多くは表裏一体であること、そして私の担当している J-クレジット制度というのが技術ベースで省エネ、省 CO₂を進めていくという制度であることから、グリーンディールに関連する議論に少しでもお役に立てるのではないかと思います、少しお話をさせていただきます。

大きくはエネルギーの全体像、省エネ施策、J-クレジット制度という 3 つのパートに分けてご説明します。最初の省エネの方は主に産業界の話で、本日のくらしの省エネということからは少し外れますので、簡単に進めたいと思います。